



ロベルト酒井の

# 南十字の空から

ブラジル通信 No. 30

平成 26 年 12 月 1 日～12 月 5 日

(平成 26 年度 第 15 号【最終】)

発行者 豊橋市教育委員会

酒井 憲一



パウロ局長と記念撮影

## パラナ州教育局長と懇談

懇談していただいたパウロ・シュミッチ局長が今年の4月に就任したため、私は初めて局長にお会いすることになりました。

局長は日本に何度も訪れたことがある親日家で、自身の娘さんに「SAYURI」という日本名を名付けるほどです。また、多くのブラジル人が居住する豊田市の保見団地にも足を運ばれ、私が推進して

いる帰国者支援について理解を示してくれました。

そこで、以下の3点をお願いし、前向きに検討していただくことを約束してくださいました。

- ① 「パラナ州帰国者支援プログラム」(前号参照)の推進
- ② 帰国者を正確に把握するためのシステム構築
- ③ 過去の本市指導主事のパラナ州担当者の協力継続



パウロ局長と懇談

## 在クリチバ日本国総領事館主催昼食会

クリチバ市からサンパウロ市に移動するにあたり、3ヶ月間の派遣活動の報告を兼ね、在クリチバ日本国総領事館 池田総領事へあいさつに伺いました。総領事は私の活動の労をねぎらうため、総領事公邸に招いてくださり、昼食をごちそうしてくれました。(懐かしい日本食!)

総領事は、パラナ州における帰国者支援を具体的に進めるため、関係者を同席させてくださったり、資料をご提供くださったり、深い理解を示してくださいました。



総領事公邸での昼食会

また、来年の日伯関係のさまざまな周年行事における帰国者支援のセミナー開催など、多くのご教示をいただきました。この恩に報いるためにも具体策の検討が必要です。

## サンパウロ市へ移動!



オフィス街のパウリスタ通りにて

### 「カエルプロジェクト」訪問

サンパウロ市を中心に先進的な帰国者支援をしている「カエルプロジェクト」を訪問し、担当の中川先生と懇談しました。

懇談では、以下の3点が今後の課題として検討が必要となりました。

- ・発達障害を含め、帰国者の心理的サポートが複雑化
- ・ブラジルでは、日本よりボリビア、ハイチからの外国人移住者が増加
- ・帰国者の正確な把握  
(州政府や州教育局との連携が不可欠)



担当の中川先生

### 在サンパウロ日本国総領事館表敬訪問

衆議院総選挙の公示を受け、海外で在外投票が始まりました。在サンパウロ日本国総領事館も投票受付事務等で多忙ではありましたが、飯田領事部長が応対してくださいました。

懇談の中で、「昭和30年代に渡航された日系1世の方々がご高齢になり、3世以降の若者世代には『日系』という意識が薄れている。」と話され、サンパウロでも日系社会の少子高齢化が問題になっているようです。



飯田 領事部長

### ロベルト酒井の「こんな時どうスルー？」

前号は「私が毎日食べた日本人好みのサンドイッチは何でしょう？」という問題でしたが、答えは「② 豚肉とネギのサンドイッチ」です。

これは、豚肉をツナのように細かく裂いてキャベツと玉ねぎを混ぜて炒め、そこに醤油のようなもので味付けをしてパンに乗せます。その上に細かく切った大量の緑のネギを乗せ、マヨネーズをかけてパンで挟みます。

私は「ネギ」を使うというところにひかれて食べましたが、和風のような味で感動しました。

それでは第30問。サンパウロのホテルには、なんと朝食に日本食がありました。帰国を前に私は、ホテルで3回朝食を食べることになりますが、日本食を目の前にしてどうしたでしょう？

- ① 帰国までがまんし、食べなかった
  - ② 味見に1回だけ食べた
  - ③ おいしくて毎日食べた
- 答えは「帰国報告会」で！

### 豚肉とネギのサンド



### 本年度の派遣を終えて～ブラジルから学ぶこと～（雑感）

ブラジル人に対して「時間を守らない」「準備をせず、その場で対応する」というマイナスイメージがありますが、確かに私も同じような場面に何回も遭遇しました。しかし、「約束した」「あなたの役割」という「建前論」を振りかざしても改善されません。日本は、建前論を振りかざせば、相手がどんな気持ちになろうが物事は進みます。しかし、ブラジル滞在中、私は建前論を排除し、「酒井のためなら応援しよう」と思ってくれるように、あいさつをはじめ、ブラジル人らしい陽気なコミュニケーションを心がけました。自己満足かもしれませんが、その方法が相手の心を動かしたと思っています。

日本人は「忙しい？」というあいさつをします。ブラジル人は「Tudo Bem（ご機嫌いかが？）」に象徴されるように、「忙しい」という言葉をあまり使いません。日本人は、「忙しい」という言葉を使いすぎて、組織や仲間のバランスが崩れていないでしょうか？ブラジル人は、どんなに忙しくても「忙しい」とは言わず、友達のために動きます。私のために献身的に動いてくれたブラジルの方々に感謝するとともに、私自身の振る舞いを見直し、ブラジルから学ぶべきことを実践したいと思います。

最後に、遠く日本よりご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。「ロベルト酒井」こと酒井憲一